

平成28年度愛知県がんセンター公開講座(第4回)のご案内

「がんと共に生きる2016～研究から実践まで～」

= 平成28年9月3日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「がん悪液質の克服を目指した研究」

「がん悪液質(あくえきしつ)」は、がんのために患者さんの筋肉が急激に痩せて体重が減少してしまう状態のことを指します。そのような現象は大昔から知られていましたが、なぜ「がん悪液質」が発症するのかは今でもよく分かっていません。私どもは、がん組織から放出される何らかの物質が肝臓や筋肉に作用して「がん悪液質」を引き起こすという仮説を立て、数百もの生体内化学物質を一気に測定する最新技術などを用いて、「がん悪液質」が発症する原因とメカニズムを調べています。このような研究の成果を「がん悪液質」の早期診断法や予防・治療法の開発につなげられれば、がん患者さんの生活の質を大きく改善できる可能性があると考えています。「がん悪液質」研究の現状についてご紹介します。

分子病態学部 部長 青木 正博

「生活習慣と遺伝子からがん予防を考える」

がんにかかる患者さんは年々増えています。生活習慣とがんとの関係が次々と明らかになってきました。遺伝子とがんの関係も同様に知識が積み重なっております。しかしながら、両者をどうやって我々のがん予防に取り入れていくのか、ということに関しての研究は道半ばです。

愛知県がんセンターでは、生活習慣を含む環境要因と、遺伝子の組み合わせによるがん予防法を永年研究しています。本公開講座ではその一旦をご紹介したいと思えます。

遺伝子医療研究部 部長 松尾 恵太郎

「診断期からの緩和ケア」

先日、私の名札を見た患者さんに「緩和ケアって何ですか？」と聞かれました。緩和ケアがまだまだ浸透できていないと力不足を実感しました。

「緩和ケア」と聞くと、終末期医療というイメージがありませんか？そして、そもそも緩和ケアとは何か？という疑問があるのではないのでしょうか。今は、早期に緩和ケアを受けることで、生活の質が向上し、生命予後を改善する可能性があると言われてしています。そのため、本テーマであるがんと共に生きる時に、緩和ケアは必須であります。この講座で、緩和ケアが身近なものになればと思います。

看護部 緩和ケア認定看護師 藤下 礼

「相談支援センターによるこそ」

「がん相談支援センター」は、全国全てのがん診療連携拠点病院にあります。がんのこと、治療のこと、今後の療養生活のこと等、がんにかかわる質問や相談にお応えしています。

病院内にありますが、その病院に通院をしていなくても、電話・面談等の方法により、どなたでも無料で相談できます。がん相談支援センターは、患者さんと家族を支えるお手伝いをしています。当院の場合、面談の予約は不要です。ただし就労・就職相談については、社会保険労務士・ハローワークの職員が対応しますので予約が必要となります。がんに関して悩みごとがありましたら、どうぞご利用下さい。

地域医療連携・相談支援センター 認定がん専門相談員 山田 佳代子